

青壮年層の地域住民が高齢者に期待する役割

タカハシ カズコ ヤスマラ セイジ ハガ ヒロシ
高橋 和子*1 安村 誠司*2 芳賀 博*3

目的 青壮年層の地域住民が高齢者に期待する役割を明らかにする。

方法 対象は、福島県S市A地区在住の20～64歳の住民3,442人のうち、1/4を無作為抽出した861人である。調査方法は、自記式質問紙を用いて郵送法にて行った。調査内容は、対象者の属性および高齢者に期待する役割とした。「高齢者に期待する家での役割」は、食事の支度、掃除、孫の世話や保育などの16項目、「高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができる団体・組織・会」は、町内会・自治会、老人会・高齢者団体、地域の文化・祭り関係の会などの16項目、「高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができるボランティア活動」は、環境美化・整備活動、子育て支援等の活動、高齢者福祉関連活動等の11項目を挙げ該当項目を選択してもらった。分析は、Fisherの直接法にて性別比較と性・年齢別比較を行った。

結果 高齢者に期待する家での役割は、男女ともに「庭や花壇・菜園の管理」「留守番・電話番」の順であった。男女比較では「家計や財産の管理」で、男性の割合が高く、女性では「漬物・乾物・味噌作りなど」の割合が有意に高かった。参加や役割を果たせる団体・組織・会は、「老人会・高齢者団体」が男女ともに7割以上を占め、最も高い割合であった。ボランティア活動では、男女ともに「環境美化・整備活動」「子どもへの遊びの指導等」の割合が高く、男女比較では「農作業に関する活動」「子育て支援等の活動」「子どもへの遊びの指導等」で女性の割合が有意に高かった。性・年齢別の比較では、男性は年齢による差は認められなかった。女性は、年齢間での差があり、20～39歳では、子育て支援や子どもに関する活動、地域文化への関わりなど、40～59歳では、介護や高齢者福祉に関する役割期待が高かった。

結論 青壮年層が高齢者に期待する役割は、日常生活やその地域の中で実際に高齢者が行うことがイメージできる身近な内容が挙げられていた。高齢者が役割を持って地域での生活を続けていくためには、引退・隠居という社会的通念にとらわれずに、家庭内での役割の継続や高齢者が関われる地域活動を盛んにし、高齢者が主体的に担える役割を増やすことが重要である。

キーワード 青壮年，高齢者，地域住民，役割期待

緒 言

高齢社会の進展に伴い、老年期の社会生活のありようが、問われるようになった。21世紀の高齢者保健福祉施策の指針を示すゴールドプラ

ン21においても元気高齢者の増加が目指されており、高齢者の健康づくり、生きがいづくり対策は、主要課題の1つとなっている¹⁾。

老年期の社会生活の変化は、社会的地位の喪失やそれに伴う役割の喪失に説明されるところ

*1 宮城大学看護学部准教授 *2 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座教授

*3 桜美林大学大学院国際学研究所教授

が大きい。壮年期までに築いてきた重要な活動の喪失は「老後」の始まりと認識され、この社会的変化を否定的に受け止めている人は、自身の老いに対しても悲観的であるともいわれている²⁾。しかし、本来「役割」は、社会的相互作用により生涯を通じて変化するものであり、老年期においても継続し、また新たに獲得されるものもある。老年期は、定年・引退といったライフイベントに伴う社会的役割の喪失が強調されがちであるが、老年期の延長によってもたらされる、維持・獲得できる役割に注目し、社会的な相互作用の活性化を図ることが、これからの高齢社会において重要であると考えられる。

直井³⁾は、社会学的視点から高齢者の役割を整理する中で、第一線から退き、職業的・社会的に引退するという「老人」という地位に期待されている役割と、個人と個人の相互作用を繰り返すうちに行動することを期待されるようになるインフォーマルな役割があると述べている。前者は、社会的通念としての老人像を前提に期待される役割であり、後者は、高齢者個人が家庭やインフォーマルな関わりの中で獲得していく役割であると考えられる。いずれにしても役割の遂行は、周囲や他者からの潜在的、顕在的な役割の期待があり、それが役割として高齢者自身に認知されたときに初めて可能になる。

そのため、高齢者以外の周囲の人々が高齢者にどのようなことを行って欲しいと期待しているかを明らかにすることは、高齢者自身が周囲からの期待を知ることにつながり、主体的に取り組める役割の遂行や新たな獲得を支援できるのではないかと考える。しかし、日本において高齢者の役割を全体的に捉えて報告した研究は少ない⁴⁾。高齢者を対象に、社会的役割としての社会参加⁵⁾⁶⁾、社会活動⁷⁾⁹⁾について報告したものがほとんどであり、高齢者以外の人からの高齢者に対する役割期待を報告したものは見当たらない。

以上のことから、本研究では、青壮年層の地域住民が高齢者に期待する役割を明らかにすることを目的とする。

方 法

(1) 対象および期間

対象は、平成17年2月1日現在、福島県S市A地区在住の20～64歳の住民3,442人のうち、1/4を無作為抽出した861人である。S市は、約1割の世帯が農業に従事しており、農業を専業としない場合も農作業や家庭菜園など日常的に行われている地方都市に隣接した郊外型の市である。

調査期間は、平成17年3月10～18日であった。

(2) 調査方法と内容

調査方法は、自記式質問紙を用いて郵送法に行った。調査内容は、対象者の属性として年齢、性別、同居している家族、就業状況を把握した。高齢者に期待する役割については、高齢者が役割を果たしている場として、「家」「地域組織」「地域社会」を想定し、それぞれの場で考えられる活動内容を具体的に挙げた。「高齢者に期待する家での役割(16項目)」「高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができる団体・組織・会(16項目)」「高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができるボランティア活動(11項目)」について把握した。回答は各項目の中から該当するものを選択してもらった。

(3) 分析方法

回答の得られた対象者のうち、性・年齢不明者、全役割項目の欠損回答者は分析から除外した。また、年代ごとの分析を20歳間隔で行うこととし、60歳以上の人は分析対象から除外した。最初に基本統計量の算出とFisherの直接法を用いて性別による役割項目の比較を行い、次に、性別に年齢を20歳間隔に分けて比較した。有意水準を5%とした。解析はSPSS Ver.14.0 J for Windowsを使用した。

(4) 用語の定義

本研究では「高齢者の役割」を「家庭、地域の団体・組織・会(会社や営利団体を除く)、

表1 高齢者に期待する家での役割

(単位 人,()内%)

	全体 (n = 375)	男性 (n = 175)	女性 (n = 203)
庭や花壇・菜園の管理	183(48.8)	83(47.4)	100(49.3)
留守番・電話番	160(42.7)	73(41.7)	87(42.9)
近所付き合い	157(41.9)	73(41.7)	84(41.4)
神棚や仏壇の管理	128(34.1)	54(30.9)	74(36.5)
漬物・乾物・味噌作りなど	126(33.6)	49(28.0)	77(37.9)*
孫の世話や保育	109(29.1)	57(32.6)	52(25.6)
掃除	86(22.9)	45(25.7)	41(20.2)
食事の支度	78(20.8)	33(18.9)	45(22.2)
洗濯	66(17.6)	36(20.6)	30(14.8)
家業の手伝い	52(13.9)	26(14.9)	26(12.8)
老親や配偶者の介護	48(12.8)	23(13.1)	25(12.3)
ごみ捨て・ごみ処理	48(12.8)	27(15.4)	21(10.3)
ペットや家畜の世話	44(11.7)	16(9.1)	28(13.8)
家計や財産の管理	19(5.1)	14(8.0)	5(2.5)*
大工仕事や家の修繕	17(4.5)	11(6.3)	6(3.0)
なし	40(10.7)	19(10.9)	21(10.3)

注 男女比較：Fisherの直接法 * p < 0.05

地域社会において行っている、周囲からの期待や個人の主体性に基づいて遂行される行動様式」と定義した。

(5) 倫理的配慮

調査に関する説明・依頼文を対象者に送付し、質問紙の返送をもって調査協力の意思確認を行った。また、回答は自由意思とし、個人が特定されないよう無記名にした。

結 果

(1) 対象者の基本属性

対象者861人中、回答が得られたのは478人(回収割合55.5%)、有効回答は463人(有効回答率53.8%)であった。そのうち、60歳未満の396人を分析対象とした(男性184人：平均年齢44.3 ± 10.6歳、女性212人：平均年齢41.3 ± 12.2歳)。

家族構成は、男性の約6割は、配偶者、実父母、子どもと同居しており、女性の約7割は配偶者、子どもと同居していた。就業状況は、男性が84.4%、女性は72.5%が有職者であった。

(2) 高齢者に期待する役割

高齢者に期待する家での役割は、全体的に「庭や花壇・菜園の管理(48.8%)」「留守番・

表2 高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができる団体・組織・会

(単位 人,()内%)

	全体 (n = 362)	男性 (n = 169)	女性 (n = 193)
老人会・高齢者団体	285(78.7)	122(72.2)	163(84.5)**
趣味・レクリエーション関係の会	177(48.9)	71(42.0)	106(54.9)*
地域の文化・祭り関係の会	171(47.2)	69(40.8)	102(52.8)*
町内会・自治会	120(33.1)	67(39.6)	53(27.5)*
ボランティア関係団体	103(28.5)	44(26.0)	59(30.6)
民生委員・福祉関係団体	82(22.7)	45(26.6)	37(19.2)
婦人会・女性団体	69(19.1)	31(18.3)	38(19.7)
宗教関連団体・寺の檀家組織	62(17.1)	35(20.7)	27(14.0)
保健・食生活改善関係組織	54(14.9)	24(14.2)	30(15.5)
戦友会・遺族会	45(12.4)	20(11.8)	25(13.0)
退職者団体	43(11.9)	18(10.7)	25(13.0)
農協・漁協・森林組合	33(9.1)	15(8.9)	18(9.3)
スポーツ関係の指導組織	32(8.8)	18(10.7)	14(7.3)
商工会・法人会等の商工団体	24(6.6)	11(6.5)	13(6.7)
政治関連団体・後援会	23(6.4)	11(6.5)	12(6.2)
なし	3(0.8)	2(1.2)	1(0.5)

注 男女比較：Fisherの直接法 * p < 0.05, ** p < 0.01

表3 高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができるボランティア活動

(単位 人,()内%)

	全体 (n = 354)	男性 (n = 169)	女性 (n = 192)
環境美化・整備活動	309(87.3)	143(84.6)	166(86.5)
子どもへの遊びの指導等	206(58.2)	80(47.3)	126(65.6)**
地域清掃等の清掃活動	149(42.1)	72(42.6)	77(40.1)
農作業に関する活動	138(39.0)	54(32.0)	84(43.8)*
子育て支援等の活動	138(39.0)	54(32.0)	84(43.8)*
高齢者福祉関連活動	105(29.7)	47(27.8)	58(30.2)
施設管理や案内・監視等	60(16.9)	30(17.8)	30(15.6)
運動・音楽・踊りの指導等	56(15.8)	25(14.8)	31(16.1)
施設補修等の作業活動	48(13.6)	22(13.0)	26(13.5)
集金・交通安全・夜回り等の自治活動	42(11.9)	21(12.4)	21(10.9)
なし	1(0.3)	1(0.6)	-()

注 男女比較：Fisherの直接法 * p < 0.05, ** p < 0.01

電話番号(42.7%)」の割合が高かった。男女別にみても同様の結果であった。男女比較では「家計や財産の管理」で差があり、男性の割合が高かった。「漬物・乾物・味噌作りなど」は、女性の割合が有意に高かった(表1)。

参加や役割を果たせる団体・組織・会については、男性・女性ともに、「老人会・高齢者団体」、次いで「趣味・レクリエーション関係の会」の割合が高かった。男女比較では「町内会・自治会」で男性の割合が有意に高く、「老人会・高齢者団体」「趣味・レクリエーション関係の会」「地域の文化・祭り関係の会」は女性の割合が有意に高かった(表2)。

ボランティア活動は、全体および男女別にみ

ても「環境美化・整備活動」「子どもへの遊びの指導等」の割合が高かった。男女比較では「子どもへの遊びの指導等」「農作業に関する活動」「子育て支援等の活動」で女性の割合が有意に高かった(表3)。

(3) 高齢者に期待する役割の性・年齢別比較

男性では、家での役割、団体・組織・会活動、ボランティア活動のいずれも年齢別の比較で有意な差を認めるものはなかった(表4, 5, 6)。

女性では、家での役割の「孫の世話や保育」は20~39歳が、「洗濯」「老親や配偶者の介護」は40~59歳の割合が高く、有意差が認められた(表4)。

団体・組織・会の活動については、「地域の文化・祭り関係の会」「農協・漁協・森林組合」は20~39歳が、「保健・食生活改善関係組織」は40~59歳の割合が高かった(表5)。

ボランティア活動では、「子どもへの遊び指導等」「農作業に関する活動」「子育て支援等の活動」は20~39歳が、「高齢者福祉関連活動」「施設管理や案内・監視等」「施設補修等の作業活動」は40~59歳の割合が高かった(表6)。

考 察

(1) 青壮年層が高齢者に期待する役割の性別傾向について

男女ともに、家では「庭や花壇・菜園の管理」、ボランティア活動でも「環境美化・整備活動」と環境美化に関する期待が高かった。環境美化活動に関しては、これまでの高齢者を対象とした先行研究においても高齢者が比較的取り組みやすい活動であると指摘されている⁵⁾¹⁰⁾。そのため、高齢者が

表4 高齢者に期待する家での役割

(単位 人,()内%)

	男性		女性	
	20~39歳 (n=50)	40~59歳 (n=125)	20~39歳 (n=87)	40~59歳 (n=116)
庭や花壇・菜園の管理	21(42.0)	62(49.6)	36(41.4)	64(55.2)
留守番・電話番	18(36.0)	55(44.0)	38(43.7)	49(42.2)
近所付き合い	21(42.0)	52(41.6)	37(42.5)	47(40.5)
神棚や仏壇の管理	17(34.0)	37(29.6)	33(37.9)	41(35.3)
漬物・乾物・味噌作りなど	16(32.0)	33(26.4)	32(36.8)	45(38.8)
孫の世話や保育	16(32.0)	41(32.8)	34(39.1)	18(15.5)**
掃除	13(26.0)	32(25.6)	12(13.8)	29(25.0)
食事の支度	10(20.0)	23(18.4)	15(17.2)	30(25.9)
洗濯	9(18.0)	27(21.6)	6(6.9)	24(20.7)**
家業の手伝い	6(12.0)	20(16.0)	8(9.2)	18(15.5)
老親や配偶者の介護	7(14.0)	16(12.8)	5(5.7)	20(17.2)*
ごみ捨て・ごみ処理	6(12.0)	21(16.8)	5(5.7)	16(13.8)
ペットや家畜の世話	4(8.0)	12(9.6)	10(11.5)	18(15.5)
家計や財産の管理	4(8.0)	10(8.0)	1(1.1)	4(3.4)
大工仕事や家の修繕	3(6.0)	8(6.4)	1(1.1)	5(4.3)
なし	7(14.0)	12(9.6)	10(11.5)	11(9.5)

注 Fisherの直接法 *p<0.05,**p<0.01,***p<0.001

表5 高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができる団体・組織・会

(単位 人,()内%)

	男性		女性	
	20~39歳 (n=49)	40~59歳 (n=120)	20~39歳 (n=78)	40~59歳 (n=115)
老人会・高齢者団体	33(67.3)	89(74.2)	66(84.6)	97(84.3)
趣味・レクリエーション関係の会	23(46.9)	48(40.0)	44(56.4)	62(53.9)
地域の文化・祭り関係の会	15(30.6)	54(45.0)	50(64.1)	52(45.2)*
町内会・自治会	18(36.7)	49(40.8)	24(30.8)	29(25.2)
ボランティア関係団体	16(32.7)	28(23.3)	20(25.6)	39(33.9)
民生委員・福祉関係団体	9(18.4)	36(30.0)	13(16.7)	24(20.9)
婦人会・女性団体	8(16.3)	23(19.2)	13(16.7)	25(21.7)
宗教関連団体・寺の檀家組織	12(24.5)	23(19.2)	9(11.5)	18(15.7)
保健・食生活改善関係組織	7(14.3)	17(14.2)	6(7.7)	24(20.9)*
戦友会・遺族会	4(8.2)	16(13.3)	10(12.8)	15(13.0)
退職者団体	6(12.2)	12(10.0)	8(10.3)	17(14.8)
農協・漁協・森林組合	7(14.3)	8(6.7)	13(16.7)	5(4.3)**
スポーツ関係の指導組織	7(14.3)	11(9.2)	4(5.1)	10(8.7)
商工会・法人会等の商工団体	2(4.1)	9(7.5)	8(10.3)	5(4.3)
政治関連団体・後援会	3(6.1)	8(6.7)	5(6.4)	7(6.1)
なし	1(2.0)	1(0.8)	1(1.3)	-(-)

注 Fisherの直接法 *p<0.05,**p<0.01

表6 高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができるボランティア活動

(単位 人,()内%)

	男性		女性	
	20~39歳 (n=50)	40~59歳 (n=119)	20~39歳 (n=79)	40~59歳 (n=113)
環境美化・整備活動	38(76.0)	105(88.2)	66(83.5)	100(88.5)
子どもへの遊びの指導等	28(56.0)	52(43.7)	59(74.7)	67(59.3)*
地域清掃等の清掃活動	27(54.0)	45(37.8)	35(44.3)	42(37.2)
農作業に関する活動	20(40.0)	34(28.6)	46(58.2)	38(33.6)**
子育て支援等の活動	14(28.0)	40(33.6)	42(53.2)	42(37.2)*
高齢者福祉関連活動	11(22.0)	36(30.3)	17(21.5)	41(36.3)*
施設管理や案内・監視等	6(12.0)	24(20.2)	5(6.3)	25(22.1)**
運動・音楽・踊りの指導等	9(18.0)	16(13.4)	14(17.7)	17(15.0)
施設補修等の作業活動	6(12.0)	16(13.4)	5(6.3)	21(18.6)*
集金・交通安全・夜回り等の自治活動	4(8.0)	17(14.3)	5(6.3)	16(14.2)
なし	-(-)	1(0.8)	-(-)	-(-)

注 Fisherの直接法 *p<0.05,**p<0.01

行っているのを目にする機会も多く、現実的かつ身近な内容として期待が高かったものと考えられる。一方で掃除、食事の支度、洗濯といった家事については、全体的に期待する割合が低かった。女性では、漬物や乾物・味噌作りに関する期待は高く、家事の中でも長年のコツや経験が必要なものは高齢者に行って欲しいと考えていることが推測される。

高齢者が参加したり重要な役割を果たすことができる団体・組織・会では、「老人会・高齢者団体」が約8割を占めていた。老人会（クラブ）へ的高齢者の実際の参加状況は2～3割程度であると報告されており¹¹⁾¹²⁾、それほど高いといえる割合ではないが、高齢者の活動場所としてのイメージが反映されたものと思われる。

家、地域での活動いずれにおいても、これまで高齢者が行ってきた活動や、社会的通念としての老人像の反映と思われる回答が主なものであった。

(2) 青壮年層が高齢者に期待する役割の性・年齢別傾向について

性・年齢別比較では、男性で有意な差は認められなかった。20～59歳の男性では、高齢者への期待は、年齢によって特に変化するものではないことがうかがわれた。

女性では、家での役割について20～39歳で孫の世話や保育を期待する割合が有意に高かった。厚生労働省「平成16年度全国家庭児童調査」によると、未就学および小学校1～3年生の子どもを持つ父母の約8割が子育てに何らかの不安を抱いており、子どものしつけに関することが約6割で最も高い割合であった¹³⁾。20～39歳の女性の子どもの年齢は、それほど高くないことは容易に推測できる。同調査では、しつけに関する相談相手の7割が家族であった¹³⁾。そのため、若い世代の女性では特に、子育ての不安を相談したり、子育てに対する協力を求める相手として高齢者への期待が高くなったのではないかと考える。40～59歳では、洗濯、老親や配偶者の介護の割合が有意に高かった。洗濯については、同居家族の中でも世代間で分離して行っ

ている家事労働であることが指摘されている¹⁴⁾。炊事や掃除に関しては、家族全体のために行う家事としてその家の主婦が担うという意識があるのかもしれないが、洗濯に関しては身の回りのこととして、高齢者自身または夫婦単位で行って欲しいと考えていることが推察される。また、老親や配偶者の介護は、20～39歳の子どもの世話と同様に、40～59歳の女性では、高齢者に協力して欲しい、より身近な内容として考えられたのではないかと思われる。

家での役割と同じ傾向がボランティア活動でも認められ、20～39歳では子どもに関すること、40～59歳では高齢者への福祉活動の期待が高かった。また20～39歳では、農作業に関する活動への期待も高かった。A地区は、農業従事者や農作業を日常的に行っている高齢者が多く、趣味や職業として行ってきた活動の継続を期待しているものと考えられる。

団体・組織・会については、20～39歳で地域の文化・祭り関係の会での活躍への期待が高かった。このことは、女性の中でもより若い年代は、地域文化の継承を、高齢者ならではの役割として担ってもらいたいと考えているのではないかと思われる。

全体的に青壮年層が考える高齢者に期待する役割として、日常生活や、その地域の中での高齢者が活動することを実際にイメージできる身近なものを挙げていた。そのため、高齢者が役割を持って地域での生活を続けていくためには、引退・隠居という社会的通念にとらわれず、現在、担っている役割を継続できることが重要になると考える。その一方で、固定化した老人像が根底にあることは否定できず、高齢者の新たな役割の獲得には、これまでの老人像を変えていく社会的な取り組みが必要になってくると考えられる。

「役割の遂行」は、「期待される役割」があり、そのことを「役割」として個々が認識することで実行に至る。2007年からは、団塊の世代といわれる人たちの退職が始まる。この世代の活力を生かす方向で、高齢者の小学校支援ボランティアや雇用支援が図られている¹⁵⁾¹⁶⁾。これ

まで、例のなかった新たな取り組みにより高齢者の役割の獲得が進みつつある。これらに限らず、高齢者が、地域、家庭において積極的に役割を持ちながら生活することが当たり前になるよう、社会全体の意識を変化させていくことが高齢者の活動の場を広げ、老年期における役割の維持・獲得に寄与するのではないかと考える。

現在の日本において、青壮年層が高齢者に期待する家庭や地域での役割を明らかにした報告はみられず、本研究は地域の人々への教育・啓発活動の基礎資料として価値のあるものと考えられる。しかし、役割に関する概念や構成内容については課題を残している。本研究では、収入を伴う職業に関することは触れていないが、高齢者の就労は促進の流れにあり¹⁷⁾、高齢者に期待される役割も急速に変わりつつある。役割に関する構成概念をより明確にすることで、時代に対応した高齢者の役割の検討を行っていくことが必要であると考えられる。また、本研究は、農村地区に近い特性を持つ地域での調査であったため、期待される役割が都市部と異なることが推測される。今後は都市部の傾向を把握し、地域特性を加味した高齢者への役割期待を明らかにすることも必要であろう。

謝辞

本研究は、平成16年厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業（主任研究者 芳賀博）の一環として実施された。本研究を実施するに当たり、調査にご協力いただきました福島県S市A地区の健康づくりの会の皆様、S市民健康課の皆様、調査対象者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 厚生統計協会・国民衛生の動向・厚生指標 2006；53(9)：97-104。
- 2) 古谷野亘・高齢期をみる目。古谷野亘，安藤孝敏編。新社会老年学 シニアライフのゆくえ。東京：ワールドプランニング，2003；13-26。
- 3) 直井道子。老化の社会的アプローチ。折茂肇編

集代表。新老年学 第2版。東京：東京大学出版会，1999；1315-24。

- 4) 高橋和子，安村誠司，矢部順子，他。東北地方の在宅高齢者における地域・家庭での役割の実態と関連要因の検討。厚生指標 2007；(1)：9-16。
- 5) 松岡英子。高齢者の社会参加とその関連要因。老年社会科学 1992；14：15-23。
- 6) 金貞任，新開省二，熊谷修，他。地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因：埼玉県鳩山町の調査から。日本公衆衛生雑誌 2004；51(5)：322-34。
- 7) 玉腰暁子，大野良之，清水弘之，他。全国市町村における高齢者の社会活動に関する実態調査の実施状況。公衆衛生 1994；58(10)：738-42。
- 8) 玉腰暁子，青木利恵，大野良之，他。高齢者における社会活動の実態。日本公衆衛生雑誌 1996；42(10)：888-96。
- 9) 橋本修二，青木利恵，玉腰暁子，他。高齢者の社会活動における市町村の対策実施状況と個人の活動-既存統計に基づく検討-。厚生指標 1998；45(2)：18-22。
- 10) 林幸克。社会教育行政の講座を受講している高齢者の学習意識の検討。高齢者のケアと行動科学 2003；9(1)：66-74。
- 11) 西下彰俊。高齢者における社会参加の保障。折茂肇編集代表。新老年学 第2版。東京：東京大学出版会，1999；1505-16。
- 12) 高橋勇悦。大都市高齢社会の生活スタイル-東京都心部高齢者実態調査概要報告-。総合都市研究 1992，46：5-34。
- 13) 厚生労働省ホームページ。平成16年度全国家庭児童調査結果の概要。(http://www-bm.mhlw.go.jp/houdou/2006/06/h0630-6.html)。2006.6.30。
- 14) 菅谷よし子。親夫婦と子夫婦の同居形態と生活分離-近郊農村の場合-。社会老年学 1982；15：38-51。
- 15) 職業安定局高齢・障害者雇用対策部。障害者・高齢者の雇用支援について。厚生労働 2006；61(9)：42-3。
- 16) 藤原佳典。団塊・シニアボランティアのエビデンス。公衆衛生情報 2006；36(8)：22-5。
- 17) 厚生労働省ホームページ。ミレニアム・プロジェクト(高齢者の雇用・就労を可能とする経済社会の実現のための大規模な調査研究)の最終報告について。(http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/04/h0405-1.html)。2002.4.5。